

一般質問者一覧表〔第1回市議会定例会
令和2年3月10日、11日開議〕

質問日	令和2年3月10日(火)		質問方式	分割方式			
質問順位	1	会派名	市民クラブ	議席番号	11	氏名	岩田邦泰
表題	質問内容					答弁者の職名	
<p>1 行政区再編について</p> <p>(1) 結論を導く時期について</p> <p>(2) 特別委員会の今後の議論に対する期待について</p>	<p>さきの特別委員会では、令和2年12月までに再編の有無を決定し、結論が「有」の場合、その後あるべき姿を求めることとなった。</p> <p>(1) 特別委員会で私は「有無の結論は9月に置き、12月末には具体策を確定するくらいの高めの目標を持ち、前倒していくべき」と発言した。そこで、結論を導く時期についての考えを伺う。</p> <p>(2) 特別委員会に対する報道では「区再編是非から再び議論」などとされた。今回示された工程には平成27年からの過去議論と重複している部分もあると思われる。このような中、今後特別委員会にどのような議論を期待するか考えを伺う。</p>					鈴木市長	
<p>2 エネルギー政策について</p> <p>(1) 条例の周知について</p> <p>(2) カルテによる発電事業者指導について</p> <p>(3) 農業用水での小水力発電の可能性調査について</p>	<p>本市の再生可能エネルギーへの取り組みは、非常に先進的である。令和元年11月定例会にて浜松市適正な再生可能エネルギーの導入等の促進に関する条例が制定され、導入促進と災害対策や自然環境・生活環境の保全を両輪で行っていくことが明確化されたことは、さらなる取り組みの深化と受け取っている。</p> <p>(1) この条例は新たに周知義務を課される発電事業者はもとより、今後発電施設の設置が計画される地域住民の理解が重要と考える。そこで、周知についてどのような具体策を考えているのか伺う。</p> <p>(2) 今年度開催の決算審査特別委員会では、発電事業者への調査で太陽光発電設備カルテがまとめられ、対象の7割に不備があることが報告された。そこで、このカルテを活用した指導を徹底するべきと考えるがどうか伺う。</p> <p>(3) 浜松市適正な再生可能エネルギーの導入等の促進に関する条例に明記はないが、市内には水力の利用が可能な農業用水がある。過去長きにわたって農業用水を利用した小水力発電が議論され、都田川ダムでは小水力発電の導入可能性調査が完了し計画段階に進んでいるとのことだが、他の農業用水の調査の進捗について伺う。</p>					<p>渡瀬産業部長</p> <p>〃</p> <p>山下農林水産担当部長</p>	
<p>3 UIJターン促進について</p>	<p>本市に生まれ育ち、学生時代はさまざまな場所で広い見識を得た優秀な人材や、生まれた場所は違っても、本市のすばらしい環境の中で働きたいという人材の力は、本市を持続可能にする上で非常に重要な要素であると考えます。</p>						

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>(1) マッチングアドバイザー事業の拡充について</p> <p>(2) 県立・私立高校への働きかけについて</p> <p>(3) はじめようハマライフについて</p>	<p>(1) 本市としてU I Jターンでの求職者の増加に向けた施策の展開を続けているが、新卒者の売り手市場の中では非常に厳しい状況と聞いている。待ちではない攻めの手法が必要でありマッチングアドバイザーの活動をより拡充していく必要があると考えるが、マッチングアドバイザー事業の現状と今後の取り組みについて伺う。</p> <p>(2) 現在、市内小・中校生に対しては、将来の進路について考えるキャリア教育が行われており、市立高校も独自の浜市（はまいち）ふるさと講座にて地元企業の魅力を伝えている。しかし、その他の多くの市内にある県立・私立高校の進学希望の高校生に対してもUターンに対する意識醸成を図るべきである。そのためには市内の県立・私立高校へ協力を働きかけるべきと考えるが伺う。</p> <p>(3) 転職者の獲得策として移住・就業支援金の最大100万円を受け取ることができる、はじめようハマライフ助成事業費補助金については、余り知られていないと感じる。東京23区に既に住み、現在働いている人たちにこの制度を知らせること自体が非常に難しいと考える。まずは浜松に住む親へのアプローチを強化し「いずれ浜松に帰って暮らしたい」と考えている子供たちへ、年末年始や浜松まつり、盆休みなどのタイミングで機を捉えて、親から子に伝えてもらえるような戦略が必要と考えるが伺う。</p>	<p>渡瀬産業部長</p> <p>〃</p> <p>山下市民部長</p>
<p>4 音楽の都・浜松の発信について</p> <p>(1) 「音楽の都」の観光資源化について</p> <p>(2) 行政としてのストリートピアノ設置可能性について</p>	<p>本市は「音楽の都・浜松」としてさまざまに取り上げられており、音楽を使った観光誘致をより進めるべきである。</p> <p>(1) ユーチューバーには町なかにあるストリートピアノの演奏動画を投稿している人が多くおり、再生回数200万回以上の動画も存在している。これらの動画に登場するピアノは駅コンコースや商店街などオープンスペースにあり、立ちどまって聞きほれる人たちや、知らない人同士のセッションが始まるなど、まさに自然発生的な「音楽のまち」となっている。本市も本来こうあるべきである。そこで、ユーチューブの動画再生回数などを踏まえ、デジタルファーストの本市観光資源として「音楽の都」というキーワードは非常に有効と考えるが伺う。</p> <p>(2) 本市には新幹線改札内や新東名浜松サービスエリアにある展示ブースにストリートピアノは存在するが、オープンな場所ではない。2018年10月に市長へのご意見箱へ市民から公共の場所や街角への設置について問い合わせがあったが、その際は民間の活動が始まるよう期待するとの回答であった。観光資源としての価値があるのならば、期待をかけるだけでなく、テレビ番組で紹介された神戸市のように行政としての積極的な設置や、民間への積極的な後押しがあるべきと考えるが伺う。</p>	<p>石坂観光・ブランド振興担当部長</p> <p>寺田文化振興担当部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>5 交通安全対策について</p> <p>(1) 交差点などのカラー舗装について</p> <p>(2) 自転車通行標示について</p> <p>(3) 高校生世代への交通安全教育について</p> <p>(4) 二輪車の駐車場対策について</p> <p>(5) 「いっちゃんお！」の機能強化について</p>	<p>本市が政令市中、人口10万人当たりの人身事故発生件数がワーストワンになって10年が経過し、11年連続も確実視されている。ワーストワン脱却には他都市より何歩も踏み込んだ安全対策が求められるが、道路を走ってみると、まだまだ課題は多い。</p> <p>(1) 視認性を高める目的でカラー舗装された交差点は年々増加しているが、同じ市内でも所により塗色が異なる場合があり運転者として混乱する。中には二輪車で通行の際、特に雨天では滑りそうなペイント素材で塗られている箇所も見受けられる。この素材は交差点だけでなく、追突注意喚起の帯状のものにも使われている。視認性の向上や注意喚起など路面をカラー化する効果は高いと考えるが、「バイクのふるさと」である本市として二輪車転倒事故の抑止を初め、交通事故全体の削減のためにも、カラー舗装は塗色を統一し、滑りづらいものにするべきであると考えますが対策について伺う。</p> <p>(2) 自転車は軽車両であるため車道を走ることが基本とされている。そのため車道上に矢羽根マークが施されている箇所をよく見るが、これは暫定的な措置である。国土交通省・警察庁のガイドラインでは、四輪車の走行車線の横に自転車通行帯を設けるべきところ、幅員が不足するなどしてすぐには整備できない場合の暫定措置として車道に自転車の矢羽根の通行標示をするとある。この視点で現在の整備状況を確認し、課題対策の上、今後の道路計画に反映していくことが必要と考えるが伺う。</p> <p>(3) 西区の県立高校では民間交通教育機関の協力を得て体験的なカリキュラムを地域力向上事業の一つで行っているが、本来は交通部門として市内全体の高校で同様の教育をするべきである。卒業後にはみずからハンドルを握り交通社会に出ていく「プレドライバー世代」として高校生のうちにしっかりと交通教育を受けておくことは、通学時の自転車利用時のみならず、卒業後の初心運転者事故の減にもつながる。他自治体では二輪車運転免許を取得した高校生に体験型交通教育を行う先進事例もある。そこで、本市においても高校生に体験型の交通教育を行うべきと考えるが伺う。</p> <p>(4) 走行空間や歩行空間の確保という観点で二輪車駐車場対策も交通安全対策の一つである。本件については、今年度開催の決算審査特別委員会にて、125ccまでの第二種原動機付自転車を自転車駐車場に受け入れる条例改正を行うよう指摘しているが、その進捗とあわせて原付二種以上の二輪車駐車場対策の進捗について伺う。</p> <p>(5) 本市には「いっちゃんお！」という、道路舗装やガードレールなどの異常箇所を市民がスマホで通報して修繕を依頼できる便利なアプリがある。しかし、平成27年4</p>	<p>柴山土木部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>月の供用開始から約5年となるが、スマホの機能も発達した現在、使い勝手や動きなどアプリ自体、またステータス更新遅延など運用面でも課題がある。加えて市民の認知度も高くない状況も大きな課題である。しかし、この便利な「いっちゃお！」をより使いやすく、より機能をふやしてさらなる周知を行うことで、市民利用をふやすことができれば、「市民協働での住みよいまちづくり」につながるものとする。そこで、「いっちゃお！」の強化について考えを伺う。</p>	
<p>6 排水路能力最大化について</p> <p>(1) 水路の維持管理について</p> <p>(2) タマネギ畑周辺の側溝の現状と対策について</p>	<p>私の住む西区入野町は堀留川があり、周辺地域と同様に川の堤防沿いは昔の養鰻池の低地である。現在は宅地化が進む中、昨年7月豪雨の際には床上床下とも浸水が発生した。</p> <p>(1) 本市は堀留川流域を浜松市総合雨水対策計画に基づき重点対策エリアに指定し、県事業の堀留川改修工事に係る区間での樋門統廃合などが計画され、安心・安全の進展が期待されている。しかし、樋門に通じる水路は周囲が養鰻池だったところに整備されたものも多く、擁壁老朽化などの課題があり、将来発生する豪雨時の浸水原因となることを懸念する。そこで、市の水路維持管理の現状と今後の対応について伺う。</p> <p>(2) 西区や南区では地物野菜として新タマネギが有名であり、砂地を利用した畑で栽培されている。しかし、その砂が飛砂や降雨時の流出により道路側溝にたまっており、加えて側溝にふたがされている場合には、内部で植物が根を張るなどして土砂が固まっている場所もある。これでは近年の豪雨事情において排水能力が不足し、道路・畑とも冠水する原因となることが容易に想定できる。側溝にたまった土砂は、自治会が主体になって道路まで上げておけば、市が回収する仕組みはあるが、住民の少ない広範囲な農地周辺で住宅地と同じやり方は難しいと考える。そこで、現状認識と今後の具体的な対策を伺う。</p>	<p>柴山土木部長</p>
<p>7 アクトシティ浜松の動く歩道について</p> <p>(1) 動く歩道の今後について</p>	<p>本市のランドマークとしてアクトタワーは昨年25周年を迎え、長寿命化に向け今後はさまざまな修繕が必要になる。</p> <p>(1) 令和元年11月定例会で、動く歩道修繕費用として約2500万円を含む補正予算が可決された。今後同時期に設置された残り7本も修繕の可能性があると考え、数年内に合計2億円の修繕費発生も考えられる。別の視点で、車椅子利用者がこの通路を利用する際、動く歩道が逆に邪魔になるのではないかと懸念する。そこで、コストと利用実態を踏まえ、動く歩道の廃止を含め今後の考えを伺う。</p>	<p>寺田文化振興担当部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
(2) ユニバーサルデザインの検証について	(2) 前問の動く歩道は、浜松市のユニバーサルデザイン啓発資料にも掲載されている。しかし、時代の流れに合わせた住みよいまちづくりをしていくためにも、動く歩道の例のように、現在行っているユニバーサルデザインの啓発について、一度立ちどまって内容の検証をする考えはないか伺う。	山下市民部長
8 子育てサポート「はますくファイル」について	<p>本市は自然に囲まれ、働く場所があり、子供を育てる環境はととてもすぐれている。また市の手厚い子育て支援もすばらしいと感じている。しかし、過ぎたるは及ばざるがごとしという言葉がある。</p> <p>本市は妊娠がわかった段階で母子手帳とともにA4版のはますくファイルを配付し、妊娠中から育児までの困り事への対応方法などを広報している。しかし、母子手帳は常に持ち歩くが、はますくファイルは大き過ぎて使っていない人が多いとの声がある。他市では携帯アプリで同様のサービスをしている例もあることから、本市としてアプリ化していく考えはないか伺う。</p>	金原こども家庭部長